

クレハガイ *Epitonium clementinum* (Grateloup)

【選定理由】

本種は内湾奥の潮下帯砂泥底にすむ。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は豊川河口域、三河湾奥(蒲郡市沖)、日間賀島南沖などで生貝が採集されているが、個体数は非常に少ない(木村, 1996; 松岡ほか, 1999)。その後の調査で名古屋港沖(木村, 2010)、三河湾島嶼域(早瀬・木村, 2020)等で生息が確認されたが、生貝の個体数は非常に少ない。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。



名古屋市名古屋港沖(ドレッジ水深 6 m), 2008 年 10 月 10 日, 木村昭一採集

【形態】

殻長約 15 mm の低い塔型で、殻は白色で螺層は良く膨れ、3 本の褐色帯がある。殻表にはやや強い縦肋があり光沢がある。蓋は革質で褐色。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように生息地、個体数は非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、西太平洋、国内では房総半島・佐渡島～九州まで分布する(木村, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように現在でも生貝が少数採集されているが、生息場所、個体数とも明らかに減少している。

【保全上の留意点】

上述したように県内潮下帯の環境を保全する。本種はアマモ場周辺で生息が確認されているので、アマモ場も同様に保全することが必要であろう。

【引用文献】

- 早瀬善正・木村昭一, 2020. 佐久島(三河湾)の潮間帯貝類相. ちりぼたん, 50 (1): 33-79.
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2012. クレハガイ, p. 62. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野
松岡敬二・木村妙子・木村昭一・三谷水産高等学校増殖部・山口啓子・高安克己, 1999. 豊川下流域の貝類相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 9: 15-24
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)